

県民参加型の生物相調査事業

# 県立自然公園の生物相基礎調査

調査受託者：特定非営利活動法人 西条自然学校

## 目的

県民参加による生物相調査及びデータベースの作成や、普及啓発を通じて、自然環境に対する県民の理解を深め、環境保全に対する意識の高い人材を育成するとともに、地域の暮らしとの調和を図りながら貴重な自然環境の保全を実践し、次世代に引き継ぐことを目的とする。

## 調査内容

・ **調査地域** 皿ヶ嶺連峰県立自然公園

・ **調査項目と調査方法**

哺乳類：無人カメラ調査（中・大型哺乳類）、巣箱・捕獲調査（小型哺乳類）

鳥類：ラインセンサス（繁殖期、越冬期）

昆虫類：目視・採集・鳴き声調査（地表徘徊性甲虫類、セミ類、直翅類）

爬虫両棲類：目視調査

高等植物：目視調査（必要に応じて標本作成）

コケ植物：目視調査（必要に応じて標本作成）

陸産貝類：目視調査（必要に応じて標本作成）

**調査実施期間** 令和6年5月9日-令和7年3月14日

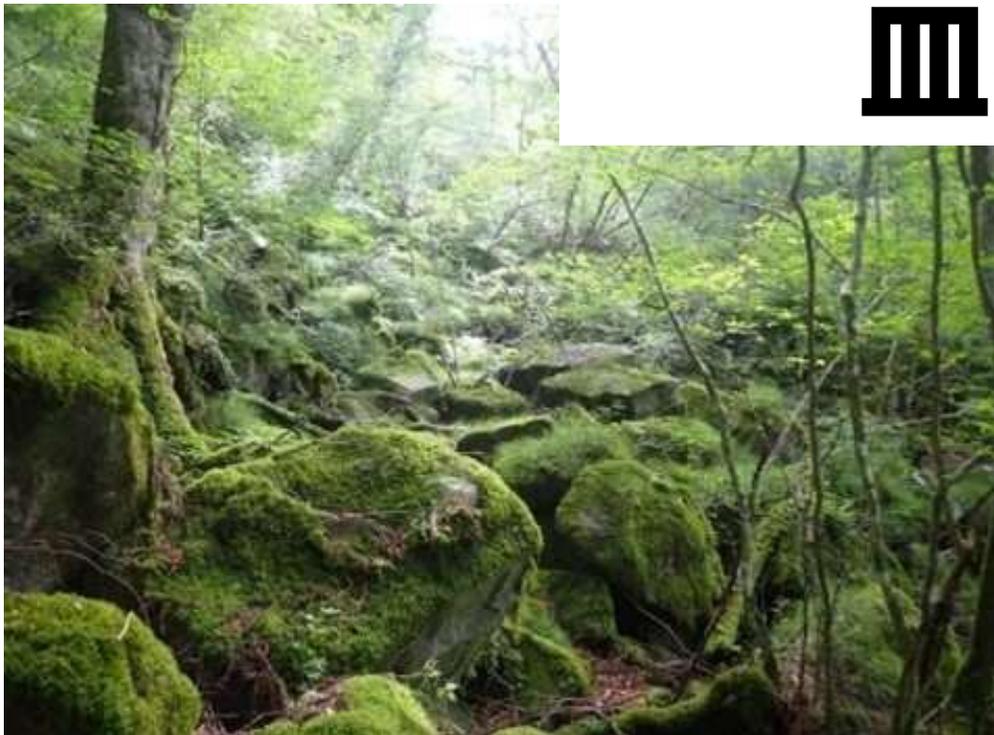
# 令和6年度 調査地点及び調査範囲



皿ヶ嶺連峰  
県立自然公園



**令和6年度調査地概観**  
**皿ヶ嶺**



# 令和6年度 調査結果概要

**哺乳類**：16種確認。

特記事項：コウモリ3種（キクガシラ、コテング、モモジロ）アカネズミ、ヒメネズミ、ヤマネを初記録。

**鳥類**：47種確認。

特記事項：クマタカ、サシバ、オオムシクイ、キバシリなど6種の絶滅危惧種を確認。

**昆虫類**：バッタ目32種、セミ科10種確認。地表徘徊性甲虫は解析中。

特記事項：冷涼地を好むコノシタウマ、ウンゼンツユムシ、アカエゾゼミ、シコククロナガオサムシなどを確認。

**両棲爬虫類**：12種確認。

**高等植物**：125科728種確認。

特記事項：ミズチドリ、ツクシミノボロスゲ、エゾシロネなどの湿地性植物、ヒメスギラン、ミヤマノダケなどの高山性植物を含めた、31種の絶滅危惧種を確認。

**コケ植物**：53科149種確認。

特記事項：高標高地に生育するクロゴケを確認。竜神平付近のブナ林内で絶滅危惧種であるオオミツヤゴケの群生を確認、県内の生育地の中では最も規模が大きい。

**陸産貝類**：9科22種確認。

特記事項：タキギセル、イヨギセル、ホソヒメギセルなど7種の絶滅危惧種を確認。

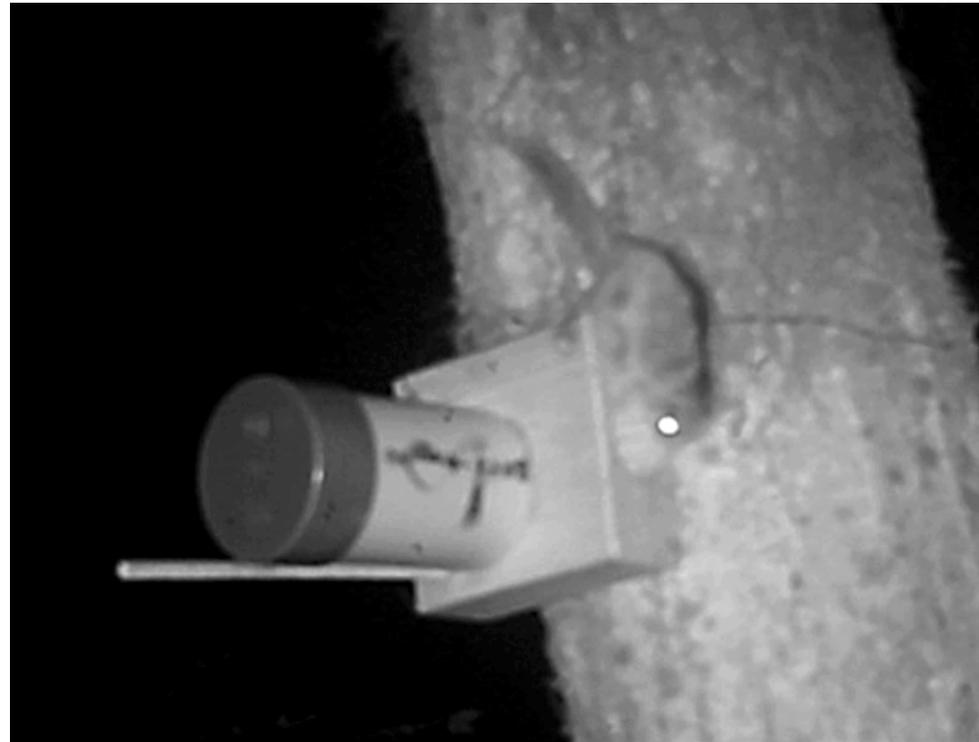
## 特筆すべき種①(哺乳類)



モモジロコウモリ

*Myotis macrodactylus*

主に洞窟に生息。県内に広く分布する種であるが、これまでに皿ヶ嶺でのコウモリ類調査は実施されておらず、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリと合わせて初めての記録となる。



ヤマネ (県準滅危惧NT・国指定天然記念物)

*Gliruhus japonicus*

夜行性で主に樹上で生活し、果実・種子・昆虫その他の小動物などを食べる。樹洞などに樹皮やコケを集めて巣をつくり繁殖する。センサーカメラ調査により確認した。皿ヶ嶺では初記録となる。

## 特筆すべき種②(昆虫類)



**アカエゾゼミ (県準絶滅危惧)**  
*Tibicen flammatus*

クマゼミほどある大型のセミ。「ウィー...」という低く大きな連続音で鳴く。近似種のエゾゼミがスギなどの植林でも見られるのに対して、本種はブナ帯に依存する。今回の調査では竜神平の下の登山道周辺で複数頭確認された。



**ハダカササキリモドキ**  
*Tettigoniopsis hiurai*

樹上性。夜間にササ類や低木の上を徘徊して他の昆虫などを食べる。成虫になっても飛べる翅がない。ブナ帯など冷温帯林で見られ、絶滅危惧種に指定している自治体もある。今回の調査では風穴と竜神平の周辺で複数頭確認された。

## 特筆すべき種③(高等植物)



### ヒメスギラン (県絶滅危惧EN類)

*Cyclea insularis* (Makino) Hatus

ヒカゲノカズラ科の常緑の小さなシダで、高い山地の岩上などで稀に見られる。県内では赤石山系と石鎚山系で記録されており、今回の調査では、1カ所で本種の生育を確認した。



### クマノギク (県絶滅危惧 I B類)

*Sphagneticola calendulacea* (L.) Pruski

ラン科の多年草で、山間の湿地に生育する。茎の高さは50~90cmで、葉は5~12個が互生する。花期は6~7月で、長さが10~20cmの穂状の花序を伸ばし、白色で芳香がある花をつける。今回の調査では、3カ所で21個体が確認された。

# 今後のデータ活用について

## 県立自然公園の生物相基礎調査

県立自然公園に生育、生息する生物を明らかにし、保全対象の選定や保全策の策定などに活かし、次世代に引き継ぐことを目的とする。



データベースへ反映、レッドリスト更新への活用